

機関番号：14503

研究種目：基盤研究B

研究期間：2008～2010

課題番号：20320032

研究課題名（和文）イスラム世界の形成過程におけるアラブ音楽創出メカニズムの解明

研究課題名（英文）A Solution of the creational mechanism of Arab music in making process of Islamic world.

研究代表者

水野 信男 (MIZUNO NOBUO)

兵庫教育大学・学校教育研究科・名誉教授

研究者番号：50032511

研究成果の概要（和文）：

イスラム世界の形成過程で、アラブの音文化、なかでもアラブ音楽が、いかに創出され、展開したかについて、その内面的・外面的メカニズムを中心に探究した。

本研究では、現存する史料・資料・写本を読み解き、同時に現代の状況を、実地に調査・採録・分析する、という二重の手法をとった。

その結果、アラブ音楽が、周辺地域の諸民族の文化・民俗・社会との、多彩で密接な交流を経て変容し、さらには深化し、やがて現在のかたちに至った道程を実証できた。具体的には、

(1) 古典アラブ音楽の仕組みのあとづけ、(2) アンダルシア音楽の構成の解明、(3) アラブ現代音楽の現状調査、(4) イスラムの音文化（コーラン朗唱やスーフィー（神秘派）のダンス）の音楽学的分析などをおこなった。

本研究で得られた研究成果は、今後、ひろくイスラム世界の音文化を鳥瞰する際に、有益な示唆をあたえることになろう。

研究成果の概要（英文）：

In this study, we tried to research the developing mechanism of Arabic sound culture and Arab music.

Here we took two ways of research, the first is deciphering historical manuscripts, and the second is fieldwork in Middle East and North Africa.

In this study, we found how Arab music had developed in the midst of culture, folklore and society of people in neighborhood. Concretely we solved following items: (1)the scheme of classical Arab music. (2)the structure of Andalusian music. (3)the comprehension of Arab contemporary Music. (4)the musicological analysis of Islamic sound culture, for example the Coran recital, Sufi dance, etc.

The result of this study will give positive suggestion to the future prospects for Islamic sound culture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究分野：民族音楽学

科研費の分科・細目：芸術学 芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：イスラム アラブ音楽 音文化 表演文化 西アジア 中東 エジプト

1. 研究開始当初の背景

(1) 中東・地中海地域のイスラム世界が、現代にいたって、その社会的・政治的状況にかんがみ、あらためて注目されはじめ、同時にその固有の文化に対する関心が、次第にたかまりつつあった。

(2) このような状況下で、アラブ諸国の「音文化」(音を主体とする文化=サウンド・カルチャー、ソニック・カルチャー)、さらには、音楽文化への洞察もまた深まり、その実際の音現象の探究は、一般の文化研究のなかで、たしかな位置づけを得、その成果への期待は、衆目の一致するところとなった。

(3) 日本においては、エジプト、レバノン、スーダン、チュニジア、モロッコなど、中東・北アフリカ諸国からの音楽家の来日があいつぎ、我々は自国にいながらにして、アラブ音楽やアラブ文化に接する機会が、急激にふえてきた。このこと自体は、世界音楽(ワールド・ミュージック)の観点からは、よろこばしい傾向だったが、むしろここでは、そうした音文化のよってたつ背景と脈絡が希求されはじめた。

(4) 以上のような情勢から、民族音楽学の視角からも、世界の諸民族の音楽のなかでの、イスラム音楽、アラブ音楽、ひいては中東・北アフリカ地域の音文化の位置づけと探究が、急務になってきた。

(5) 現代イスラム世界の理解、ひいてはひろく異文化の理解にとって、アラブの音文化ならびに、アラブ音楽の研究の進展が、そのたしかな一助となることが確認され、本研究が実行にうつされることになった。

2. 研究の目的

(1) アラブの音文化・音楽文化のかたちを、多方面から可能なかぎり探究する。

(2) 音と暮らしの有機的結びつきを、文化的・社会的脈絡のなかでとらえる。

(3) アラブ諸国(シリア・イラク・湾岸諸国・レバノン・エジプトなど東アラブ地域、およびチュニジア・アルジェリア・モロッコなど西アラブ地域)で、それぞれ固有に展開した音楽が具有する音楽的仕組みを、比較検討し、解明する。

(4) 音文化・音楽文化をとおして、イスラム世界がはぐくんできた文明と文化の洞察をおこなう。

(5) イスラム世界の歴史的形成のプロセスと、音楽創出のメカニズムとを、有機的に連動させることにより、そこに浮かび上がるアラブ音楽の真正のかたちをさぐる。

3. 研究の方法

(1) 現地におけるフィールドワークを中心に、イスラムの音文化・音楽文化の現状を生のまま把握する。調査地域は、シリア、モロッコ、トルコ、スペイン、フランス、タンザニア(ザンジバル)、コモロ諸島など。そこでは、主に現地の音楽家とその活動状況、さらに、人びとの暮らしのなかの音の位置づけを探究する。

(2) 現地調査で収集した文献および資料(楽器、演奏の映像をふくむ)の、データベース化を試みる。

(3) 現地調査で収集した文献および音源資料の解題。具体的には、1932年のアラブ音楽会議プロシーディング、ヌーバ音源資料など。

(4) 中世アラブの音楽に関するアラビア語文献(アルキンディ、アヴィケンナなどのマニスクリプト)の解読。

(5) 国立民族学博物館共同研究「アラブ世界における音文化のしくみ」(研究代表者：堀内正樹教授)、および国立民族学博物館・西尾科研「アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズム的文学空間創出メカニズムの解明」(研究代表者：西尾哲夫教授)とのタイアップ。

(6) 国立民族学博物館・国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」(平成22年12月)とのタイアップ。

(7) フランス、パリのアラブ世界研究所における研究資料の探索。同研究所の研究者との連携研究を実施する。また、同研究所のアラブ音楽・イスラム音楽関連のイベント(演奏会など)に積極的に参加する。

(8) 国立民族学博物館にて、アラブ音楽関係資料の総合的なデータベース化を模索し、具体的に実施する。

4. 研究成果

(1) 現代エジプト音楽を展望し、あわせて中世アラビア語の歴史的音楽文献を解読することで、「アラブ古典音楽」の伝統的なかたちを、おおよそ体系づけることができた。

(2) 民俗舞踊としてのオリエンタルダンス(ベリーダンス)のフィールドワークと映像化をおこない、エジプトの音楽舞踊の世界的展開の現況を把握することができた。

(3) マグリブ地方の芸術音楽「ヌーバ」について、音楽学的視点から、その音型のデジタル化・視覚化を実現した。これは、ヌーバの全体像の解明に、多分に資することになった。

(4) エジプト 20 世紀最大の歌手ウナム・クルスームの演奏データを、総合的にまとめた。また、同歌手に関するフランス語文献の試訳もおこなった。この結果、同歌手のアラ

ブ音楽界における確固たる位置づけが、なお一層明確になった。

(5) 国立民族学博物館において、常設展西アジアコーナーの展示を一新し、あわせて、アラブ音楽の総合的データベース化を実施した。(データベース化は現在、進行中)

(6) 本科研の研究代表者、研究分担者、および、民博共同研究員、合計 13 名による研究成果を結集した論文集、『アラブの音文化——グローバル・コミュニケーションへのいざない』(304 ページ) を刊行した。(なお、本書は、東洋音楽学会平成 22 年度田邊尚雄賞を受賞した。)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

- ①西尾哲夫、P.F.Kennedy & M.Warner eds. *The Arabian Nights: Encounters and Translations in Literature and the Arts*. New York University Press. 査読有、2012
- ②西尾哲夫、新生アラビア語が生んだ“フェイスブック”革命、毎日新聞社『週刊エコノミスト』、査読無、3月22日号、2011、pp. 38-39
- ③堀内正樹、すでにそこにある場所を目指して——共同研究「非境界型世界の研究」、『民博通信』、査読無、Vol.132、2011、pp.14-15
- ④小田淳一、旋律をみる、『Field+』(フィールドプラス)、査読無、Vol.3、2010、pp.22-23
- ⑤小田淳一、音楽と文学生成(ポジションペーパー)、日本認知学会「文学と認知・コンピュータⅡ」研究分科会資料集、査読無、21W-08、2010、pp.39-41
- ⑥水野信男、旅する楽器、国立民族学博物館『月刊みんぱく』、査読無、33-5、2009、p.5
- ⑦西尾哲夫、「コーラン(クルアーン)」とイスラム共同体(ウンマ)——儀礼的音声言語の社会的機能に関する言語情報学的考察、思文閣出版 笹原亮二編『口頭伝承と文字文化——文字の民俗学 声の歴史学』、査読有、2009、pp.357-379
- ⑧西尾哲夫、エジプト・アラビア語の Wh 疑問文の語順と語順変化——コプト語影響説の再検討、『国立民族学博物館研究報告』、査読有、2009、pp.1-39
- ⑨水野信男、(書評) 谷正人著『イラン音楽——声の文化と即興』、東洋音楽学会『東洋音楽研究』、査読有、Vol.73、2008、pp.107-110
- ⑩小田淳一、楽曲演奏における修辭的技法——モロッコのアラブ=アンダルシア音楽の事例、日本認知学会「文学と認知・コンピュータⅡ」研究分科会資料集、査読無、15G-01、2008、pp.1-12

〔学会発表〕(計 10 件)

- ①水野信男、中東の音楽風土を探る、みんぱくウィークエンドサロン、2010、国立民族学博物館
- ②水野信男、ウンム・クルスム<千夜一夜>について、国際シンポジウム「アラビアンナイトのテキスト伝承」、2010、国立民族学博物館
- ③水野信男、音楽は国境をこえるか?——グローバル・コミュニケーションの可能性、平成 22 年度和歌山県高等学校芸術科教育連盟総会、2010、和歌山県白浜町
- ④堀内正樹、音楽は国境をこえるか?、毎日新聞社共催みんぱく公開公演会「ベリーダンスが世界をゆらす——音楽と舞踊のグローバル・コミュニケーション」、2010、毎日新聞社オーバルホール(大阪)
- ⑤小田淳一、アンダルシア音楽の表演における楽曲生成モデル、国立民族学博物館共同研究会「アラブ世界における音文化のしくみ」、2010、国立民族学博物館
- ⑥西尾哲夫、イスラム文明と時間——モスクでの礼拝はいかに管理されてきたか、人間文化研究機構連携研究「文化の往還」国際シンポジウム「ユーラシアと日本: 時計と時間をめぐる比較文化」、2009、国文学研究資料館
- ⑦西尾哲夫、The Takarazuka Revue and the Fantasy of “Arabia” in Japan、国際シンポジウム The Arabian Nights: Encounters and Translations in Literature and the Arts、2009、ニューヨーク大学アブダビ校(アラブ首長国連邦)
- ⑧青柳孝洋、Protest against and Submission to Globalization: Images of Muslims in Music Videos of Nasheed Deeni、Society for Ethnomusicology、2009、メキシコシティー
- ⑨水野信男、谷正人著『イランの音楽——声の文化と即興』をとりあげて、東洋音楽学会書評フォーラム、2008、国立民族学博物館
- ⑩斎藤完、1300 年を超えてネットでつながる音楽シルクロード 新たな地平へ(シンポジウム)、「ネオワールドミュージック; アジア、アラブ、アフリカ発信グローバルポップ音楽 2008」、2008、京都文化博物館

〔図書〕(計 5 件)

- ①小田淳一(共著)、悠書館、高知尾仁編『人と象徴』、2011、432
- ②西尾哲夫・堀内正樹・水野信男編著、スタイルノート、『アラブの音文化——グローバル・コミュニケーションへのいざない』、2010、304
- ③西尾哲夫、日本放送出版協会『アラビアンナイト——ファンタジーの源流を探る』、2010、175
- ④斎藤完(共著)、講談社、『ラチオ スペシ

ナル・イシュー 思想としての音楽』、2010、
386

⑤水野信男、スタイルノート、『中東・北ア
フリカの音を聴く——民族音楽学者のフイ
ールドノート』、2008、248

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水野 信男 (MIZUNO NOBUO)

兵庫教育大学・学校教育研究科・名誉教授

研究者番号：50032511

(2) 研究分担者

堀内 正樹 (HORIUCHI MASAKI)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：10209281

小田 淳一 (ODA JUN' ICHI)

東京外国語大学・

アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：10177230

西尾 哲夫 (NISHIO TETSUO)

人間文化研究機構国立民族学博物館・教授

研究者番号：90221473

斎藤 完 (SAITO MITSURU)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：10403635

青柳 孝洋 (AOYAGI TAKAHIRO)

岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号：10377690